



## ■ 男女平等 日本120位 是正 スピード感必要

スイスの研究機関「世界経済フォーラム」が発表した2021年の男女平等度ランキングで、日本は156か国中120位だった。過去最低だった20年から一つ順位を上げたものの、先進7か国(G7)の中で依然、最下位だ。なぜ下位から脱することができないのか。

ランキングは政治参加、経済活動、教育機会、健康の4分野について、男女平等の度合いを指数化し、順位を表したものだ。完全平等なら指数は1で、女性に不利であるほど0に近づく。

日本は、健康と教育機会では男女格差は小さい。だが日本以上に格差の小さな国は多く、順位は伸び悩んだ。

一方、経済活動は0.604。各国

### ● 日本での各分野の男女格差

	順位	指数	世界の平均指数
総合	120	0.656	—
①	147	④	0.218
経済活動	③	0.604	0.583
②	92	0.983	0.950
健康	65	0.973	0.957

の平均を上回ったものの、企業における女性幹部の少なさや、専門職や技術職の男女格差が響いて順位は117位と低迷した。

日本の評価を下げた最大の要因は、政治参加の0.061だ。各国平均は0.218で大きな開きがあり、147位となった。政治参加の指標は、「国会議員(日本では衆院)に占める女性割合」「閣僚に占める女性割合」「過去50年間の女性トップの在任期間」の三つ。衆院議員の女性割合は9.9%(20年2月現在)と低く、女性閣僚は2人だけ。女性の首相は誕生すらしておらず、厳しい状況だ。

ただ、日本も手をこまねているわけではない。18年に「政治分野における男女共同参画推進法」が施行され、政党が候補者に占める女性の割合を増やす努力を始めるなど、機運の高まりはみられる。しかし、諸外国はそれ以上のスピードで、実効性の高い施策を打ち出し、男女格差の是正に動いている。

今回、トップ3を北欧の国々が占めたが、6位にナミビア、7位にル

### ● 男女平等度ランキング

1(1)	アイスランド
2(3)	フィンランド
3(2)	ノルウェー
4(6)	ニュージーランド
5(4)	スウェーデン
6(12)	ナミビア
7(9)	ルワンダ
8(33)	リトアニア
9(7)	アイルランド
10(18)	スイス
⋮	
30(53)	米国
102(108)	韓国
107(106)	中国
120(121)	日本

※世界経済フォーラム調べ。( )内は前回順位

ワンダがつけ、アフリカ勢が存在感を示した。いずれも、政治分野での女性進出が際立つ。

ルワンダは政治参加が6位、経済活動が48位だった。ルワンダの駐日大使は「大統領が政府の主要ポストに女性を起用し続け、女性の登用を憲法などで明記している成果だ」と説明する。

男女格差の是正にはトップのリーダーシップが不可欠だ。迅速な対応が求められる。

ランキングは「4分野について指数化し、順位を表した」とあるので、教育機会が入ります。

1 上の表の空欄を埋め、表を完成させましょう。

① 政治参加 ② 教育機会 ③ 117 ④ 0.061

2 下線部「なぜ下位から脱することができないのか」について、記事は日本と他の国々を比較して答えを示しています。答えが書かれている一文を探し、最初の3文字を書きましょう。

し か し

日本も努力は始めていますが、ほかの国がそれ以上のスピードで実効性の高い施策を行っているために、日本の順位が上らず、下位のままだと説明されています。

3 記事で、ルワンダについて紹介したのはなぜですか。あてはまるものを全て選び、番号を書きましょう。

② ③

- ① ランキングで上位を占めた北欧の国よりも、日本と住環境が似ている国の対策を示すため。
- ② 格差是正にはトップのリーダーシップが必要という、筆者の考えのもととなる例を示すため。
- ③ 日本が課題とする分野で成果を上げた国がどのような対策を取ったのか、実例を示すため。
- ④ 先進国である日本が、アフリカの国々と同じような取り組みができない理由を示すため。

ルワンダは「大統領」が政府の主要ポストに女性を起用し続けたと書いてあります。日本が147位だった「政治参加」や117位だった「経済活動」で上位に入り、日本にとっては参考になる国なのかも知れません。



読んでみよう！

◆ミー太郎のおすすめ記事

## 酒田・東部中「標準服」採用

# 制服選び自分らしく

## 性の多様性理解へ

男子は詰め襟、女子はブレザーとスカート。男女で決められた制服の形を変えようと、酒田市飛鳥の市立東部中学校は、新年度から性別に関係なく選べる「標準服」を採用する。心と体の性が一致しないトランスジェンダーなどの性の多様性への理解を深め、自分で判断する力を養うのが目的。生徒たちは標準服に合わせた身だしなみのルールづくりにも取り組んでいる。

(鈴木恵介)



標準服は、上はブレザー、下はスカートとスラックスから選ぶことができる。ブレザーとスラックスは、体にフィットする細身のデザインも用意した。どれか一つを選ぶ必要はなく、体形や好みに応じて、組み合わせは自由だ。

胸元のネクタイとリボンも選択できる。リボンはピンク色、ネクタイは柄や色で異なる3種類。男子でも女子でも、自分に合ったものを身につけられる。同校では現在、国連が掲げる、ジェンダー平等を始めることとするSDGs（持続可能な開発目標）を積極的に学んでいる。選択の幅がある標準服は、自主性を育成できる上に、動きやすさや寒さ対策にもなるとして、昨秋、採用を決めた。標準服は新1年生以降を対象とするが、在校生でも希望すれば購入できる。

赤塚校長は「制服によってひとそれぞれに苦しい生徒もいるかもしれない。隠さなくてもいい条件を作ることが出来れば」と期待する。

校則も見直しへ  
同校では、標準服の導入に合わせて、校則で決められている身だしなみのルールも生徒たち自身で見直そうとしている。

3月1日に行われた生徒総会では、各クラスで募った意見を学級委員が発表した。「女子でショートヘアの人は耳が髪で隠れているのに、男子は髪が耳にかかってはいけない」という決まりはおかしい「外履きの色を白に限定されると、体育で足の形に合わない靴を履かないといけなくなる」などの意見が相次いだ。生徒会が集まった意見をもち、5月の生徒総会で正式に校則を決める予定だ。生徒会長で3年の小林慶太郎君(14)は「(自分たちが決めた服装やルールで)学校に来るのが嫌だと感じたり、登校できなくなったりする人がいたら、それは学校を作る生徒たちみんなの責任になると強調。」

「トランスジェンダーの」当事者だけでなく、みんなが気持ちよく過ごせるルールを作っていきたい」と力を込めた。

(2021年4月3日 読売新聞山形版より)

性別によって定められる制服や校則は

今後、減っていきそうですね。





## 学習指導要領との対応表

読むこと		構造と内容の把握	精査・解釈		
		ア	イ	ウ	エ
設 問	1			○	
	2	○			
	3				○